第６回 全国ユース環境活動発表大会

受賞校のみなさん、おめでとうございます！

読売新聞社賞

愛媛県立長浜高等学校　水族館部

日本初の高校内水族館「長高水族館」プロジェクト

長高水族館は、水族館部の生徒が運営する日本初の高校内水族館です。現在２つの教室と中庭、玄関などに約100個の水槽を設置し、地元の肱川と伊予灘の生物、愛媛県南部の宇和海の生物、沖縄の生物、約150種2,000点を飼育しています。毎月第３土曜日に一般公開し、平均500人が来館します。今年で22年目を迎え、これまで11万人を超える方に環境教育の場を提供しました。公開日には、水族館部の生徒が展示水槽の解説するとともに、ハマチの輪くぐりショーなどのイベントを通して、来館者に生き物のすばらしさを体験いただきます。さらに公開日には、町内の活魚店や飲食店などの水槽を水族館に見立てたフィールドミュージアム「長浜まちなみ水族館」が開館し、長高水族館を起点に来館者は町を回遊します。この取組を、町のシンボルであった長浜水族館の復活につなげたいと考えています。

高校生が選ぶ特別賞

青森県立むつ工業高等学校　課題研究　地中熱利用による融雪研究班

R2 地中熱利用による融雪研究班

平成27年度より課題研究　地中熱利用による融雪研究に取り組み６年目を迎える。地球上どこにでもある地中熱を利用して、雪かきの必要がない街づくりや雪かき不要な通学路を確保したいという思いから研究が始まった。地中熱は外気温－11.4℃の時でも地下10mで8.3℃（実験データから）の熱があり安定した熱が得られる。構造的オリジナリティーとして、断熱材で熱を上部だけに伝える工夫を施し、アルミ缶を利用し蓄熱及び放熱を促し、融雪できることを実証する。

６年目の今年度は、ドカ雪時の融雪不足改善を目指し、地下10mの採熱用ポリエチレン管をダブル化することで、不凍液をゆっくり回して採熱の熱交換時間を増やす工夫を試みた。今冬に実証実験に取り組みデータ取得を行うことで、融雪効率向上を証明したい。

来年度は、いよいよ融雪面にビニールハウスを建て水耕栽培に挑む。また、街区地域融雪の有効性を発信することで、SDGsターゲット、２番・７番の達成を目指したい。

先生が選ぶ特別賞

長野県長野高等学校・長野日本大学高等学校　学生団体「Gomitomo」

海無し県長野からプラゴミを無くす！「清走中～Run for trash～」

「ゴミ拾いの楽しさを広めたい」それが「清走中～Run for trash～」の最大のミッションでした。世界中の海がゴミだらけになっている現状を知り、海無し県の長野でも何か出来ないかと考え、たどり着いたのがゴミ拾いでした。初めは使命感や、義務感に駆けられ、ゴミを見つける度に憤慨していましたが、徐々にゴミ拾いに秘められた“ワクワク”に気付くようになりました。実はゴミ拾いって超楽しいんです!!

落ちているゴミを木の枝などその場に落ちているいわば“アイテム”を駆使して拾えた時の爽快感、ゴミ拾いを通じて地元の方と交流が生まれたり、新たな友達ができたり……多くの魅力があります。

そこでゴミ拾いとゲーム要素（ポイント制、ミッションなど）を組み合わせて、老若男女が参加できるごみ拾いイベント「清走中～Run for trash～」を長野県長野市で開催しました。

楽しくゴミ拾いすることで仲間も増え、まちも綺麗になる活動を続けていきたいと思います。

審　査　委　員

〈審査委員長　講評〉

地域資源を見出し、その実践・実用化に向けて多様な視点で挑戦している取り組みに感動を覚えました。また高校生らしくそれぞれの視点を生かしながら、多角的に取り組む姿にも未来への希望を感じることができました。高校生の皆さんが持続可能な地域・社会をつくる担い手となって、鳥が飛び立つように地域へ変革の風を吹かせていくことを期待しています。

審査委員長
小澤 紀美子
東京学芸大学 名誉教授

審査委員
竹本 明生
国連大学サステイナビリティ高等研究所
プログラム・アドミニストレーション・ヘッド

審査委員
三木 清香
環境省大臣官房総合政策課
環境教育推進室長

審査委員
吉池 亮
読売新聞東京本社
教育ネットワーク事務局
事務局長

審査委員
小辻 智之
独立行政法人環境再生保全機構
理事長

審査委員
数土 伸也
SGホールディングス株式会社
総務部PR・CSRユニット
担当部長